



静岡市

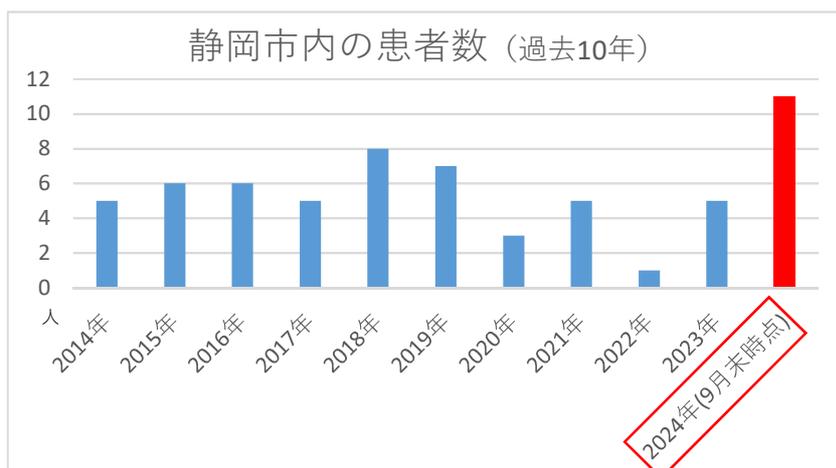
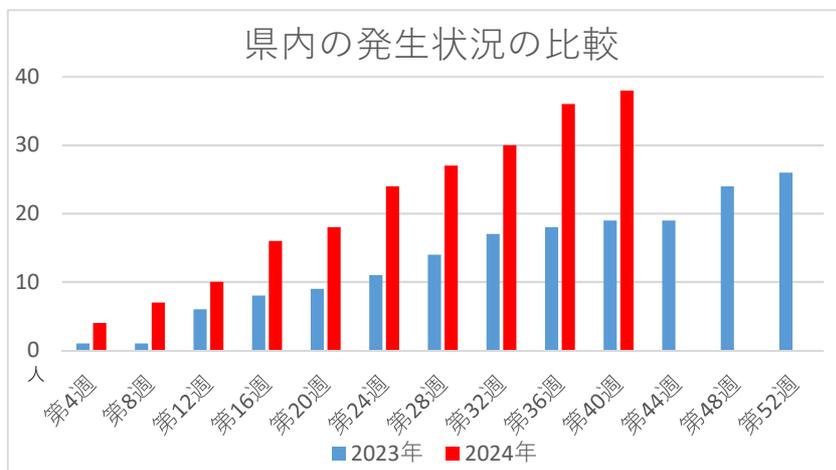
環境保健研究所

だより 【令和6年度 第2号】

静岡市内でも劇症型溶血性レンサ球菌感染症が増えています

今年は全国的に劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者数が増加しています。静岡県内の患者数を昨年の同時期と比較すると、今年は倍以上の患者が発生しています。

市内の患者数も今年の9月末時点で11人となっており、過去10年間で最も多く患者が報告されています。

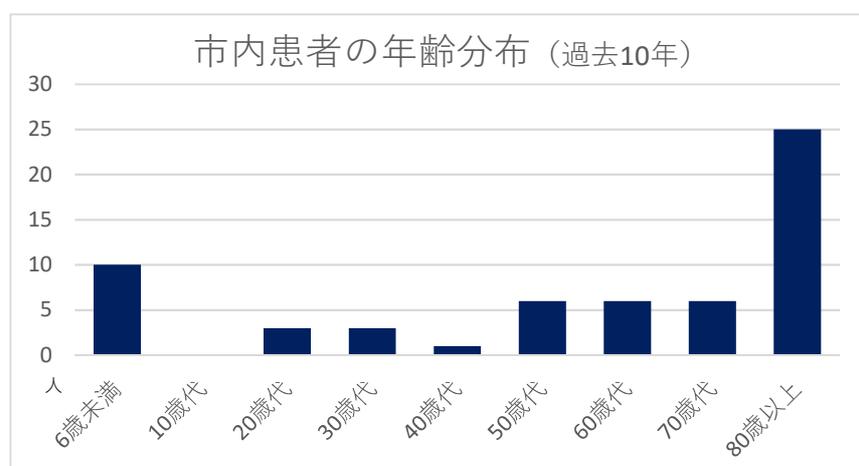


劇症型溶血性レンサ球菌感染症とは

溶血性レンサ球菌は健康な人の皮膚や咽頭に存在する常在菌ですが、病気の原因となることもあります。

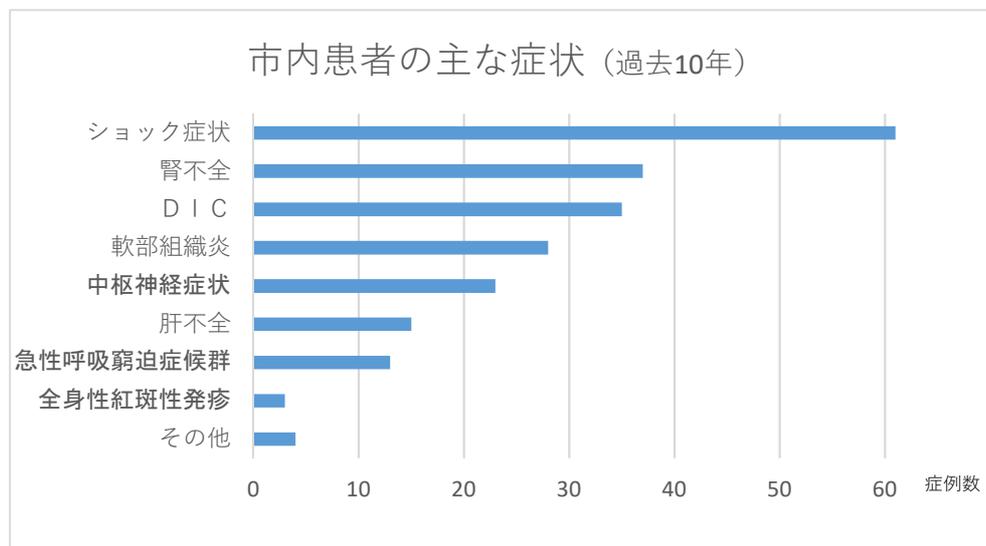
溶血性レンサ球菌に感染した場合の、一般的な症状は咽頭炎であり、主な患者は小児です。

一方、溶血性レンサ球菌感染により、稀に重篤な症状を引き起こすことがあり、これを劇症型溶血性レンサ球菌感染症といいます。患者は広範囲の年齢層に亘りますが、大人に多いという特徴があります。



症状

最初は腕や足の痛みや腫れ、発熱等から始まります。その後急速に症状が進行し、組織の壊死、多臓器不全等を起こし、全身状態の悪化により死に至ることもあります。



治療方法

抗菌薬の投与や、外科手術による病巣の切除等を行います。

原因と対策

感染経路として、飛沫感染、接触感染、傷口からの感染等が考えられています。

感染を防ぐためには咳エチケット、手洗い、傷口を清潔に保つ等、一般的な感染症対策を確実に行ってください。

参考

厚生労働省ホームページ：劇症型溶血性レンサ球菌感染症（S T S S）

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html

追記



溶血性レンサ球菌 顕微鏡写真（×1000）

当所で検査を実施した溶血性レンサ球菌のグラム染色像です。球状の菌が鎖のように長く繋がって見えることが名前の由来となっています。